

JA 全農ちば 営農情報集

2025 年
5 月



今月の情報

1. 水稲 本田初期害虫対策と取り残し雑草対策のポイント
2. 園芸野菜 病虫害防除情報
3. 果樹（ナシ）病虫害防除情報
4. イチゴ ハダニ天敵防除について
5. G A P 異物混入防止について

今月の気象（気象庁 5/1 発表 1 か月予報より）

今月は気温、降水量、日照時間ともに平年並みの予報ですが、これから気温は徐々に上がっていくため、病虫害の発生には注意しましょう。

【気温】	40	30	30
【降水量】	30	30	40
【日照時間】	20	40	40

■：低い ■：平年並み ■：高い

注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

水稲 本田初期害虫対策と 取り残し雑草対策のポイント

1. 初期害虫の生態および防除対策

箱施薬剤を使用した場合でも害虫の発生量が多いと防除しきれない場合があります。食害が多い場合は本田防除剤による追加防除を行いましょう。

(1) 初期害虫の特徴

① イネミズゾウムシ

体長3～4mm。年1回発生。
例年では4月下旬頃から飛来開始。
成虫は葉脈にそって細長く食害する。
幼虫は根を食害し初期生育を抑制する。



イネミズゾウムシ

② イネドロオイムシ

体長5mm。年1回発生。
成虫で越冬し5月以降飛来する。
成虫、幼虫ともに葉を食害するが、幼虫による被害が大きい。



イネドロオイムシ（成虫）



イネドロオイムシ（幼虫）

(2) 本田防除対策について

- ① 成虫（イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ）を中心とした防除対策
5月中～下旬に合成ピレスロイド系薬剤（水面施用剤）を散布する。

・ トレボン粒剤 2～3kg/10a

- ② 幼虫（イネドロオイムシ）を中心とした防除対策

※ 幼虫による食害が見られ始めたら「粉剤」に切り替えて散布する。

・ トレボン粉剤 DL（3～4kg/10a）、スタークル粉剤 DL（3kg/10a）

2. 水田の取り残し雑草対策

(1) ノビエ及び広葉雑草などが残った水田

レブラス1キロ粒剤・ジャンボ

- ア. 使用時期：移植後14日～ノビエ4葉期ただし、収穫60日前まで
- イ. 使用方法：湛水散布。ジャンボ剤は水田に小包装（パック）のまま投げ入れる。
- ウ. 使用薬量：1キロ粒剤 1kg/10a
ジャンボ剤 小包装（パック）10個(400g)/10a
- エ. 特 徴：ノビエのほかコナギ、ホタルイ、クログワイ、オモダカ、コウキヤガラなど広範囲に効果を示す。

クリンチャーバスME液剤

- ア. 使用時期：移植後15日～ノビエ5葉期 但し、収穫50日前まで
- イ. 使用方法：落水散布または、ごく浅く湛水して散布。散布後3日間は入水しない。
- ウ. 使用薬量：1000 ml/10a
- エ. 散布水量：70～1000/10a
- オ. 特 徴：ノビエに効果がある「クリンチャー剤」と広葉雑草に効果を示す「バサグラン剤」との混合剤。

アトトリ1キロ粒剤・豆つぶ250

- ア. 使用時期：移植後14日（稲5葉期以降）～ノビエ4葉期 但し、収穫45日前まで
- イ. 使用方法：湛水散布
- ウ. 使用薬量：1キロ粒剤 1kg/10a
豆つぶ剤 250g/10a
- エ. 特 徴：コウキヤガラ、オモダカなどの多年生雑草に対する効果高い。
ノビエも対象にする場合は、葉齢に注意し散布する。

(2) ノビエのみ残った水田 クリンチャー1キロ粒剤

- ア. 使用時期：移植後7日～ノビエ4葉期 但し、収穫30日前まで
- イ. 使用方法：湛水散布
- ウ. 使用薬量：1kg/10a
- エ. 特 徴：ノビエに効果を発揮。

(3) 広葉雑草のみ残った水田 バサグラン粒剤・液剤

- ア. 使用時期：移植後15日～収穫45日前まで
- イ. 使用方法：落水散布または、ごく浅く湛水して散布。散布後3日間は入水しない。
- ウ. 使用薬量：粒剤：3～4kg/10a
液剤：薬量500～700ml・水量70～1000/10a
- エ. 特 徴：対象草種は広葉雑草のみ。液剤はしっかりと茎葉散布処理をする。

園芸野菜 病害虫防除情報

1. ネギ〔定植準備：育苗トレイ〕

ネギでは、ペーパーポット等の育苗トレイ苗に対して灌注処理登録をもつ農薬が年々増えています。初期害虫に加えて黒腐菌核病の対策も可能になっています。また、土壌消毒（ガスタード・キルパー等）、圃場 pH 値と排水性の改善、圃場での生育期防除を組み合わせることでより高い防除効果を期待することができます。

灌注処理剤は根から成分が吸収されて効果を発揮します。定植後からの効果を期待する場合は、使用時期が「育苗期後半～定植当日」の薬剤は、定植直前の処理ではなく定植およそ3日前～前日の処理がより効果的です。

○初期害虫 防除薬剤（灌注）

対象害虫 ※1	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数 (倍) ※2	使用時期	使用 回数
アザミウマ類	4A	スタークル顆粒水溶剤	50 倍	定植前日～定植時	1 回
ハモグリバエ類	28	ベリマーク SC	400 倍	育苗期後半～定植当日	1 回
タネバエ	4A+28	ジュリボフロアブル※1	200 倍	育苗期後半～定植当日	1 回



アザミウマの被害



ハモグリバエの被害



ハモグリバエ成虫

○黒腐菌核病 防除薬剤

FRAC コード	薬剤名	希釈倍数 (倍) ※ 2	使用時期	使用方法	使用 回数
7	パレート 20 フロアブル	100	育苗期後半～定植当日	灌注	1 回

※1 ジュリボフロアブルの対象害虫はネギアザミウマ、ネギハモグリバエ、タネバエ

※2 散布水量は、セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊（約 30×60cm、使用土壌約 1.5～4L）あたり 0.5L

2. サツマイモ（定植準備）

（1）病害対策

【つる割病】

土壌伝染性病害で苗の切り口や土中の茎、根部から感染します。株全体が萎れ、葉は黄～黒褐色になり落葉します。茎の地際部が縦に割れることが特徴です。クロルピクリン剤やガスタード微粒剤等の土壌消毒と併せて下記の苗消毒処理を実施しましょう。

【基腐病】

令和3年7月にサツマイモ基腐病の発生が千葉県内で初めて確認されました。基腐病は、一度被害が発生してしまうと防除が非常に困難であるため、病原菌の圃場への侵入を未然に防ぐ、「持ち込まない」事が重要です。徹底した防除を実施しましょう。

本病の早期発見および感染拡大の防止を図るため、万が一疑義株を発見した際には、速やかに最寄りの農業事務所まで連絡をお願いいたします。

○サツマイモ 定植苗防除薬剤

対象病害	FRAC コード	薬剤名	使用量	使用時期	使用回数
つる割病	1	ベンレート水和剤	500～1000 倍	植付前	1回
黒斑病※	1		30 分間苗浸漬		
基腐病	M03	ベンレート T 水和剤 20	200 倍 30 分間苗浸漬		

※黒斑病：30 分間苗基部浸漬

（2）害虫対策

センチュウ類やコガネムシ類、ハリガネムシ類に対して、下記の粒剤による初期防除を行いましょう。後作のためにもD-D等による土壌消毒と併せた徹底防除を行いましょう。

○サツマイモ ネコブセンチュウ防除薬剤

対象害虫	IRAC コード	薬剤名	使用量 /10a	使用 時期	使用方法	使用 回数
ネコブ センチュウ	1B	ネマトリンエース粒剤	15～20kg	植付前	作条土壌混和	1 回
			10～30kg		全面土壌混和	
		ネマキック粒剤	15～50kg		全面土壌混和	1 回
	(F:7)	ビーラム粒剤	10～20kg		全面土壌混和	1 回

○サツマイモ コガネムシ・ハリガネムシ防除薬剤

対象害虫 ※1	IRAC コード	薬剤名	使用量 /10a	使用 時期	使用方法	使用 回数
コガネムシ類	4A	アドマイヤー1 粒剤	6kg	植付前	作条又は 全面土壌混和	1 回
		ダントツ粒剤	6～9kg			1 回
コガネムシ類	3A	フォース粒剤※1	9kg			1 回
ハリガネムシ類	2B	プリンスベイト※2	6kg	植付時	植溝土壌混和	1 回

※1 フォース粒剤の対象害虫はコガネムシ類幼虫、ハリガネムシ類

※2 プリンスベイト：コガネムシ類対象の場合、植付前・全面処理土壌混和登録あり

3. キャベツ（アブラムシ類）

病害虫発生予報によると、5月のアブラムシ発生量は多となります。
アブラナ科野菜には主に3種のアブラムシが寄生しますが、ダイコン、ハクサイにはニセダイコンアブラムシとモモアカアブラムシ、キャベツ、ナタネにはダイコンアブラムシが多く発生します。吸汁による直接害の他、各種ウイルス病を媒介し注意が必要です。高温・乾燥の天候が続くと急増するため今後の発生にも警戒しましょう。また、収穫物にアブラムシ類が紛れているとクレームの対象にもなりますので、収穫中にも十分ご注意ください。



モモアカアブラムシ

○キャベツ アブラムシ 防除薬剤

IRAC コード	薬剤名	希釈倍数 (倍)	使用 時期	使用方法	使用 回数
4A	アトマイヤーフロアブル	4000	収穫7日前まで	散布	2回
4C	トランスフォームフロアブル	2000	収穫前日まで		3回
28	ベネビア OD	2000	収穫前日まで		3回
29	ウララ DF	2000～3000	収穫前日まで		2回

4. トマト（黄化葉巻病ータバココナジラミ）

黄化葉巻病は、タバココナジラミによって長期にわたって蔓延される病気です。タバココナジラミは幼虫、成虫ともに長期間ウイルスを伝搬出来ます。
種子伝染、土壌伝染、汁液伝染、アブラムシによる伝染はしません。初め新葉が退色しながら葉巻きし、後に葉脈の間が黄化し縮れます。特に生育初期に感染すると生育は停滞し、多数の萎縮したわき芽が出たりします。発病後は、開花異常や不稔となり、果実の品質収量に大きく影響します。



黄化葉巻病 症状



タバココナジラミ成虫



タバココナジラミ幼虫

○トマト コナジラミ類 初期 防除薬剤

IRAC コード	薬剤名	希釈倍数 (倍)	散布液量	使用時期	使用方法	使用 回数
4A	ベストガード粒剤	1～2g/株	—	育苗期	株元処理	1回
		1～2g/株	—	定植時	植穴処理 土壌混和	1回
28	ベリマーク SC	400株当たり 25mL	400株当たり 10 ～20L(1株当 り 25～50mL)	育苗期後半 ～ 定植当日	灌注	1回
		10000倍	1～3L/m ²	定植14日後まで	株元灌注	1回

*ベリマーク SCの詳細は最後のページに記載しております。

果樹（ナシ）病害虫防除情報

1. はじめに

近年、開花が早まっている年が続きましたが、本年は梨の開花が例年並みとなりました。そのため、散布タイミングとしては概ね防除暦通りの散布になると予想されます。各園の病害虫発生状況を観察し、必要に応じて下記を参考にしながら臨機の追加防除を実施し、対策をしましょう。

2. 黒星病対策



【基幹防除】黒星病・心腐れ症・疫病などの総合予防

5月上旬：ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍（前日／3回以内）
＋ トレノックスフロアブル 500倍（30日前／5回以内）

5月中旬①：ベルコートフロアブル 1,500倍（14日前／5回以内）

5月中旬② ＜下記ポイント（2）参照＞

5月下旬：有機銅フロアブル
（例）キノンドーフロアブル 1,000倍（3日前／9回以内）

●ポイント

（1）病斑の除去

果柄部や葉軸に黒星病の発生が見られる場合は摘果作業等と合わせて除去しましょう。

（2）黒星病の臨機防除や、前進した防除タイミングを戻すため追加防除を行う場合 ユニックス顆粒水和剤 47 とベルコートフロアブルによる追加防除を実施しましょう。

（3）防除効果を安定させるには散布水量も重要です。250ℓ/10aを目安に様々な方向から 農薬がかかるよう散布しましょう。特に降雨前や発生中の病害対策のため必要です。

3. アブラムシ類、ハマキムシ類、ニセナシサビダニ類

5月以降、アブラムシ類・チョウ目害虫・ニセナシサビダニが発生します。特にアブラムシ類・ニセナシサビダニは新梢・新葉をよく観察し、防除を行いましょう。

複数種の害虫防除では基幹防除（防除暦）を参考としますが、それぞれの臨機防除が必要な場合は下枠内をご確認ください。



アブラムシ類被害



ニセナシサビダニ被害

【基幹防除】アブラムシ類・ハマキムシ類・その他害虫防除

5月上旬 オリオン水和剤 1,000 倍（3 日前／2 回以内）

5月中旬 コテツフロアブル 2,000 倍（前日／3 回以内）

or

ハチハチフロアブル 2,000 倍（30 日前／1 回）

【注意点】 コテツ・ハチハチ共に浸透移行性がないため、既に葉が巻いてしまうと効果が発揮しにくい。その場合は下記の臨機防除対策を参照。

- ・ニセナシサビダニの発生が気になる場合→コテツフロアブルを選択
- ・アブラムシの発生が気になる場合→ハチハチフロアブルを選択

5月下旬 モスピラン顆粒水溶剤 2,000 倍（前日／3 回以内）

※新高、長十郎等の場合→ダントツ水溶剤 2,000 倍（前日／3 回以内）もしくは
アクタラ顆粒水溶剤 2,000 倍（前日／3 回以内）のいずれかを散布

●アブラムシ類臨機防除

4月下旬にモベントフロアブル（浸透移行性あり）を散布していない場合は、ニセナシサビダニの防除を含め、散布しましょう。5月に入り、アブラムシ類の発生が続き、臨機防除が必要な場合はウララD F（2,000 倍／14 日前／2 回以内）またはトランスフォームフロアブル（2,000 倍／前日／3 回以内）を選択しましょう。

●チョウ目害虫の臨機防除

基幹防除のオリオン水和剤・コテツフロアブル or ハチハチフロアブル・モスピラン顆粒水溶剤がチョウ目害虫防除を兼ねますが、発生が多い場合は、マブリック水和剤の追加防除を実施しましょう。

ハダニピークを作らないイチゴ栽培のポイント

今回は
育苗期防除編です！



ー全農ハダニ“ゼロ”プロジェクトー

*2020年に天敵資材を柱とした防除プロジェクトをスタート
*イチゴハダニゼロプロジェクトには7社が協力参加



2つの重要なポイントは、

- ・「育苗期間中からハダニ類の密度をゼロに抑える」
- ・「放飼後1カ月間のハウス内湿度50%以上維持」

育苗期のハダニ類防除プログラム

4月			5月			6月			7月			8月		
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
		*5月上旬 ・アグリメック ・500倍 +気門封鎖剤			*6月上旬 ・サフオイル乳剤 ・300倍 +展着剤			*6月下旬 ・グレーシア乳剤 ・2000倍 +気門封鎖剤			*7月下旬 ・サフオイル乳剤 ・300倍 +展着剤			*8月上旬 ・アグリメック ・500倍 +気門封鎖剤
株元に設置			*天敵製剤：・ミヤコバンカー ・親株3株に1個 設置 ・4/下旬～5/下旬									定植までに、ハダニ類を ゼロベースに抑制する！		
			*ハダニが前年多発圃場は密度が高くなっているため、育苗初期の密度を下げるために天敵を導入し、6/下旬のグレーシアに引き継ぐ											

病害防除も
大切！

*炭疽病菌を本圃に持ち込まないよう育苗期間中は徹底して防除を行ってください。

薬剤防除でのポイントはここ！

使用液量

*適切な使用液量を散布する。→子苗6000株(10a分の苗)あたり100リットルの使用液量を推奨、散布圧は、目安1.5MPaを設定します。

殺ダニ剤に加用する 気門封鎖剤の例

*殺ダニ剤(アグリメック、グレーシア乳剤、ダニオーテフロアブル)を散布するときには、気門封鎖剤(例：ピタイチ、フォーモン)を加用する。
*加用することで相乗効果の事例も確認しています。展着剤を使用する必要はありません。

気門封鎖剤に加用 する展着剤の例

*気門封鎖剤(サフオイル乳剤)に湿展性の高い展着剤『まくぴか』等を加用すると均一に広がるので乾きやすくなり 薬害のリスクを軽減します。
→育苗期では晴天日の夕方、本圃では晴天日の午前中に散布することが大切です。

ハウス内 環境制御

*ミヤコカブリダニは、湿度低下でふ化や発育が阻害されてしまうため、飽差管理が重要。晴天日の昼間湿度50%以下が長時間継続しないように注意！
→(例)有機資材(稲わらやケイトップ等)の敷設、通路マルチを外す、灌水回数を増やす

4月			5月			9月		
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
収穫継続								
★最終アザミウマ防除が中心 ・ディアナSC ・グレーシア乳剤 ・散布時期：4/末まで						*9月上旬・中旬 ：定植前 ・モベントフロアブル ・500倍-50ml or ・250倍-25ml 灌注 ☞ 灌注当日の灌水は しない→効果不足		
収穫終了								

次回は
本圃防除編です！

*9月定植に向けて

- ①圃場の整備
 - ・床/床土の準備・消毒
 - ・各種資材・機材の準備、調整
- ②定植苗の準備
 - ・育成
 - ・病虫害防除(上記記載)

安全な農作物生産の取り組みについて

～異物混入防止～

1. はじめに

昨今の消費者の食の安全・安心への関心は非常に高く、新型コロナウイルスの拡大によってその傾向はさらに強まったと考えられます。これらに対するリスク管理が求められる中、農作物の食の安全安心のリスクのひとつとして「異物混入」が挙げられます。異物混入は発生頻度の高い事案でもありますので、収穫や出荷場面において未然防止に努めましょう。

2. 異物混入を防ぐために！

(1) ハサミや包丁など収穫・出荷時に使用する道具の混入に注意しましょう



使用する道具の片付ける場所を決めましょう



器具類には番号・色付けをしましょう

(2) 虫やタバコ・ペットの毛・ペンなどが出荷物に入り込まないようにしましょう
異物混入の中では「虫」・「タバコ」の混入事例が多くなっています！！

虫を作業場に入れないように網戸などで防ぎましょう



スマホの混入事例も増加中です
ポケットはチャック付を選びましょう



作業場での飲食・喫煙は避けましょう
場所を分けることができない場合は、「作業時間」と「休憩時間」など時間で区切り、都度片付けましょう



(3) 出荷用の資材は清潔に保ちましょう

出荷用の段ボールなどにはカバーをかけてホコリが被らないようにしましょう。また、汚れてしまった資材の使用は避けましょう。



異物混入は気づかないところで発生してしまうことが多いです。
「入れない」ための予防を行いましょう！

ベリマーク[®] SC

powered by
CYAZPYR[®]
ACTIVE INGREDIENT

殺虫剤分類 28

農林水産省登録：第24090（ベリマークSC）
有効成分：シアントラニプロロール（通称サイアジビル）18.7%

すばやく根から吸収される苗灌注1回で、速効食害停止&約3～4週間の残効！悪い虫をつけさせない。

令和6年度は、トマト黄化葉巻病の平均発病株率、トマト黄化葉巻病を媒介するタバココナジラミの成虫寄生株率のいずれも過去10年と比較して最も高くなりました※。

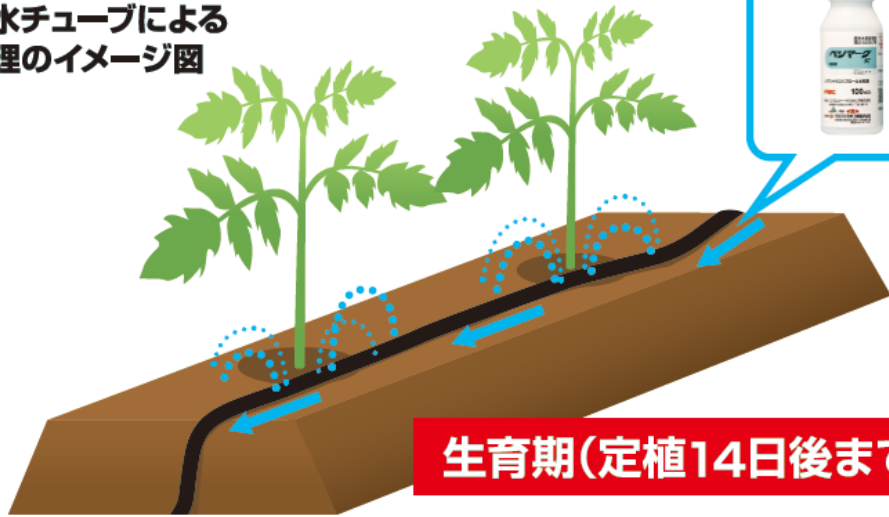
トマト黄化葉巻病はタバココナジラミにより媒介され、発病するとトマトの葉が縮れ、結実不良となります。そのため、栽培初期からタバココナジラミの防除を徹底する事が重要です。

ベリマーク[®]SCは苗への灌注処理によりコナジラミ類等への防除効果を発揮します。令和7年1月には「定植14日後までの株元灌注処理の登録」を取得し、灌水チューブ等での処理も可能です。また、トマトおよびミニトマトでは**計2回使用可能となりました**。コナジラミ類防除の選択肢の一つとして、ぜひご検討ください。

※令和6年度 病害虫発生予察注意報 第5号より

定植後 株元灌注処理

灌水チューブによる
処理のイメージ図



**10,000倍希釈
1～3ℓ/㎡で
株元灌注！**



灌水チューブ処理のイメージ

生育期(定植14日後まで)

■適用害虫と使用方法

2025年1月15日現在

作物名	適用害虫名	使用量(薬量) もしくは希釈倍数	使用量(希釈水量)もしくは使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	シアントラニプロロールを含む 農薬の総使用回数
トマト ミニトマト	アブラムシ類、アザミウマ類 コナジラミ類、ハモグリバエ類 トマトキバガ	400株 当り25ml	400株当り10～20ℓ (1株当り25～50ml)	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	5回以内 (定植時までの処理 及び定植直後の 株元灌注は 合計1回以内、 定植後の株元灌注は 1回以内、定植後の 散布は3回以内)
	コナジラミ類		400株当り20～200ℓ (1株当り50～500ml)	定植直後		株元灌注	
	コナジラミ類	200倍	セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット1冊(約30×60cm、 使用土壌約1.5～4ℓ)当り0.5ℓ	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	
		10,000倍	1～3ℓ/㎡	定植14日後 まで		株元灌注	

●ラベルをよく読んでください。●記載以外には使用しないでください。●小児の手の届くところには置かないでください。
●空容器はほ場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水は散布液調製に用いるなど、ほ場等で使用してください。●防除日誌を記帳しましょう。

©2025 FMC Corporation, All Rights Reserved, FMC, FMCロゴ、®を付した商標は、FMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。